教育

あつし塾長の

子のやる気 親の気づき

○○5

第1章・ゆとり教育世代の子どもの文化

家業

受験機に「大志」語ろう

働く姿見せること困難に

塾では、入塾の際に申込書を書いてもらいます。先日、中2の女子が、申込書の保護者欄に「○○しょうたろう」と父親の名前を平仮名で書いたので、「なぜ漢字で書かないの？」と聞いてみました。すると「見たことがありません！」ときっぱり言って微笑みました。確かに、家に表札がなく、年賀状も書かなくなれば、父親の名前を漢字で見る機会のないまま、中学生にまでなってしまうのかもしれません。

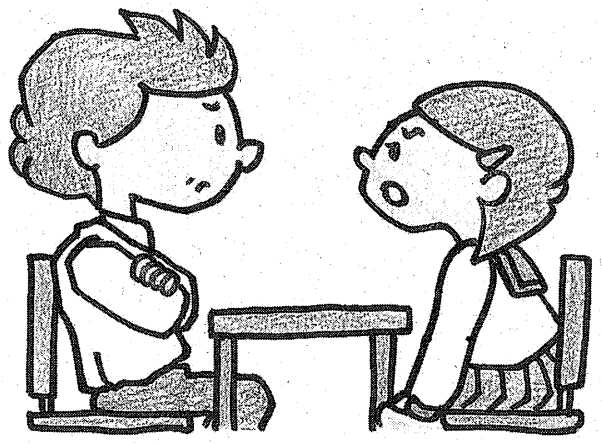
この数年、受験の面接練習で「なぜこの高校を志望しましたか？」と聞くと「近いので…」とか「親と相談して決めました」などといった答え方が増え、「自分はこうなりたい、こうしたい」という積極的な答え方をする子どもは大変少なくなってしまいました。また、「尊敬する人物は？」と投げかければ、決まって「…」。私の目を見つめたままパソコンが固まって動かないフリーズの状態のようになってしまいます。私は「特になければ父と答えたらどうですか」と助言することにしています。すると、ほっとした表情になり「はい。父です」と問答が再開します。しかし、「お父さんのどのようなところを尊敬していますか？」と続ければ、「…」。またフリーズ。父親との日々を思い巡らし「あっ！　父は毎日欠かさず塾の送迎をしてくれます」と真顔で答え、ホッとする。

便利で豊かなライフスタイルの中で育ってきた今の子どもたちにとって、高校受験は突然目の前に出現する関門です。将来への準備のない日々を送ってきている今の中学生に、面接で〝志〟を期待するのは難しいと特に最近は感じています。「志望」理由までが近い・安いという利便性・経済性に取って代わられてしまったのかもしれません。

親の名前を漢字で書けないケースはまだまだ稀でしょうが、核家族が主流となり、マイホームから職場に通うことの多い社会では、親の働いている姿を見せることの方が難しいのかもしれません。親の職業、実家の職業、自分を育ててくれた家業とは何なのか、子どもたちには知らないことが多いようです。

入試の面接では「将来、何になり何をして、どのように社会で活躍したいのか。だからこの学校を選びました」という「志望」を聞かれているのです。受験を機に、子どもの頃抱いた「大志」について親が子に語ってみることで、子どもの親との関わりが深まると思います。

（畑山篤＝志学塾塾長）

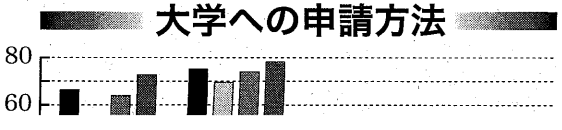


by　yoriko

新型インフ広がる中で今年の大学試センター2次試験で感染した置を設けては必要な手前に確認したい。

センター型インフルの受験許可の972人部科学省はンフル対策ガイドライ知を受けて立、私立大を検討して

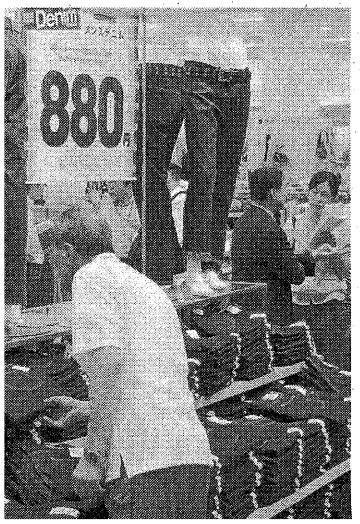
旺文社が の大学32 全158校 校）を対象



ニュース なぜなに

下げと景気悪化がくり返されているのです。

このように、物価がどんどん下がっていくことをデフレと呼びます。反対がインフレです。政府は昨年11月、3年半ぶりに「日本経済はデフレ」と宣言しました。

いとみられています。今の日本経済は供給より需要が少ないのです。

供給と需要の差は約35兆円で、日本で1年間に生み出されるモノやサービスの合計額を指す「国内総生産（GDP）」の7%にも上ります。少々値